



大穂幼稚園たより

らんらん



令和7年1月8日



第11号（文責：山本光明）



明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。年長組の子ども達はあと3ヶ月足らずで小学校入学の時を迎えます。ランドセルが似合うピカピカの1年生の姿が見られる4月が今から待ち遠しいです。年少組の子ども達は、日々、着実に成長していることを感じられうれしく思います。3月までの園での生活を子ども達にとって、楽しく有意義なものにしていきたいと考えています。これまで通り感染症対策を継続し、大穂幼稚園の子ども達や家族の皆様全員が心身共に健康で過ごせればと願っています。



◎「遊び」の大切さ

幼稚園では子ども達の活動を「遊び」と考えています。お絵かき、粘土、工作、砂場、かけっこ、三輪車、縄跳び、コマ回し、ごっこ遊び・・・これら全てが「遊び」です。この「遊び」は、一般的に大人や学校で使う「遊び」とちょっと意味が違います。大人であれば「仕事」に対する「遊び」であり、学校では「勉強（学習）」に対する「遊び」と位置づけられます。この時一般的に多くの方がイメージする「遊び」のイメージは、意味のないもの、やってもやらなくてもいいもの、というものではないでしょうか。「いつまで遊んでいるんだ。早く仕事しろ。」とか「遊びは休み時間で終わり、授業が始まるよ。」という感じで遊びという言葉が使われています。しかし、幼稚園で子ども達が体験している「遊び」の中には「学び」につながる全ての要素が詰まっています。人生を歩んでいくために必要な基礎基本という意味です。これが、幼児期は人生の基盤をつくる期間といわれる所以です。また、近年、「非認知能力」が話題になることも増えました。非認知能力とは、認知能力のように点数で表すことのできない能力のことで、ICTが急速に進化する未来社会においては、さらに重要性が高まるといわれています。学びの基礎基本だけでなく、非認知能力も幼稚園の遊びの中で育てています。幼稚園での生活は、子ども達が人生で初めて体験する集団生活です。集団生活の中で、「自分自身の世界を楽しむ」から「友達と関わりながら楽しみの世界を広げたり深めたりしていくこと」を経験していきます。自分一人ではできなかつたり、挑戦するきっかけがなかつたりする時も、友達と一緒にだから歩目を勇気をもって踏み出せるということです。また、これまで自分自身の世界を生きてきたわけですから、友達と関わりを広げたり深めたりする中で、当然、意見の違いや衝突の場面も生まれます。しかし、子ども達は、多様な遊びの中でこれらを自ら、あるいは教師の仲介を受けながら、自分なりの解決を導いていくこととなります。このような体験がこれからの学校生活や人生を歩んでいく上で、大きな意味を持つこととなります。保護者の皆様の中には、このような場面で、極端に動揺してしまう方もみられます。かわいい我が子ですから当然ことです。でもこの時、お子さんの心は、大きく成長しています。この時間をこれからも子どもの一番の理解者として、一緒に支え、乗り越えていきましょう。